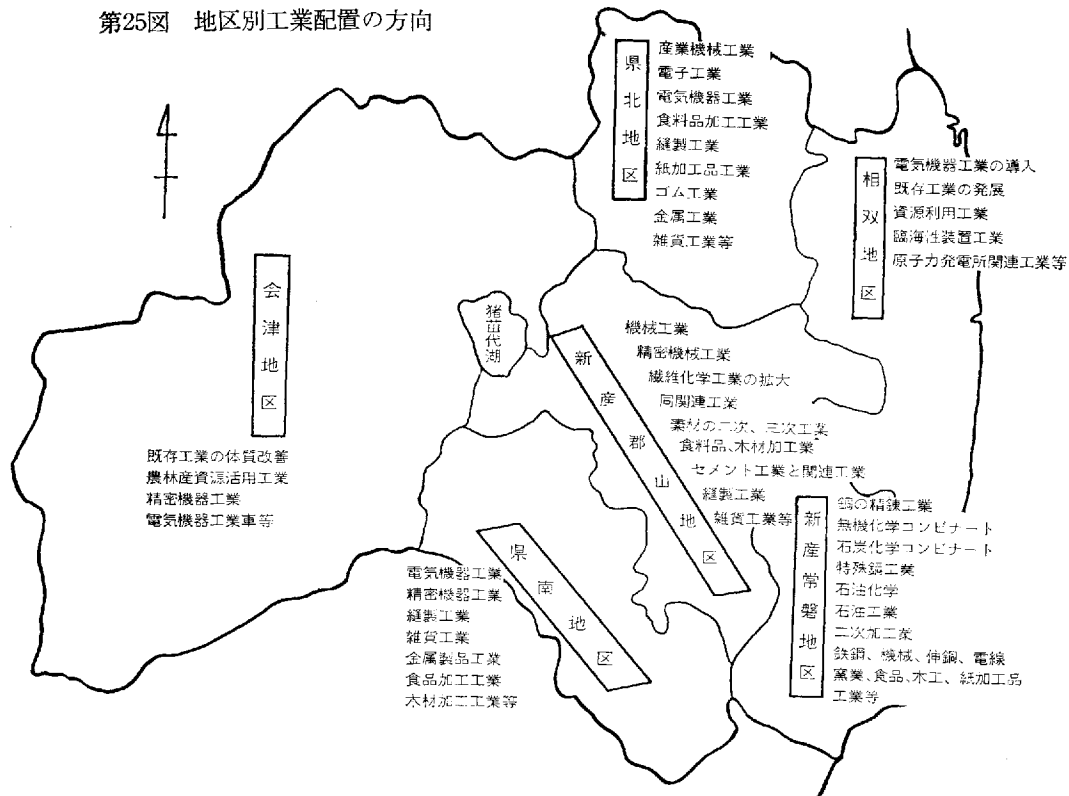


いる。

出荷額にしめる重化学工業の比重も大きくなることは、第23図からも推測できよう。

本県の立地条件の恵まれていることは、すでに第1節でみたところであるが、各地区の立地条件にたつて、各地区の特色をじゅう分發揮できる体制をつくるために、地区別工業配置の方向をさだめている。第25図によって、みてみよう。



工業配置の計画によって、各地区開発の拠点開発がすすめられることになるが、工業化の進行は、地域社会の変ぼうに直接影響する点が多い。とくに、その速さ、規模によって、影響力がかわって来るので、工業出荷額の地域別、年度別展開をみたい。第26図は、工業出荷額の地域別構成の年次的発展をしめたものである。

製造業出荷額を昭和35年を100とした指数によって昭和50年の出荷額指数を地区別にみると、

新産常磐地区	2,435	新産郡山地区	644
県北地区	440	県南地区	347
会津地区	282	相双地区	450

のとおり、各地区とも大きな発展が見通される。

新産地区の工業化が、もっとも進行し、本県工業化の中核となるが、県北地区、相双地区の工業化